

能登半島地震被災地へ派遣のトイレトレーラーが 輪島市より帰還しました

- 能登半島地震の被災地である石川県輪島市へ1月に派遣したトイレトレーラー1基が、このたび10カ月間の任務を終え本市に帰還しました。
- トイレトレーラーは、みなと気仙沼大使のサンドウィッチマン（伊達みきおさん，富澤たけしさん）が発起人となって開設された「東北魂義援金」より，令和4年12月に本市に寄贈されたものです。
- 輪島市の復興を支援するため1月6日に輪島市立鳳至^{ふげし}小学校に設置し，翌7日から稼働，24時間利用可能とし，小学校体育館に避難していた被災者の日常生活を支えました。11月に車検を迎えることから，本市への帰還を決定し，今月10日に当市観光課の職員，ガス上下水道部の職員それぞれ2人，市内の牽引事業者（レッカークマガイ）1人が輪島市に向かい，11日に撤去を行い，翌12日に登米市内の車検場に入庫しました。
- 11日に鳳至小学校を出発する際には，20人ほどの避難者の方々や避難所の運営を担うNPOのスタッフに見送りいただきました。感謝のメッセージを書いた手書きのボードをトイレトレーラーの車体に貼っていただくとともに，避難された方からのメッセージを集めたボードを本市職員に手渡しいただいております。
- トイレトレーラーは間もなく車検を終え，今月23日に開催される荒磯まつりに出動の予定です。まつり当日は贈られたメッセージボードを展示します。

■ 派遣の概要

- ・ 派遣期間 令和6年1月5日（金）～11月12日（火）
- ・ 稼働期間 同 1月7日（日）～11月11日（月）
- ・ 設置場所 輪島市立鳳至小学校（石川県輪島市鳳至町堂金田1-1）
- ・ 避難者数 47人（11月15日現在。震災発生時は約500人）

